

この資料は、昭和大学臨床研修薬剤師制度を知っていただくための一部抜粋資料です。二次利用は、ご遠慮ください。

昭和大学 統括薬剤部 臨床研修薬剤師制度



2021年4月

昭和大学 統括薬剤部

1 昭和大が目指す臨床研修薬剤師教育

昭和大の薬剤師臨床研修は、全ての薬剤師に求められる幅広い基本的な能力（知識・技術・態度・情報収集力・総合判断能力）を身につけることを目的としています。本プログラムでは、知識・技術の修得のみならず、建学の精神である「至誠一貫」を身につけるように、薬剤師としての倫理性、医療安全管理への積極的な対応、医療チームの一員としての協調性、患者およびその家族とのコミュニケーションなど、薬物療法を通して薬剤師に必要な資質を涵養することを目標としています。

1.1 プロフェッショナリズム

- (1) 強い責任感と倫理観を持って、社会人、薬剤師としての責務を自覚し、患者や地域住民に医療を提供する。
- (2) 上長、指導薬剤師への報告、連絡、相談を組織の一員であることを自覚し実践する。
- (3) 課題について自ら考え、解決する方策を立案し、実践する。
- (4) 薬剤師法その他関連法令等を正しく理解するとともに、これらを遵守して医薬品管理等の職務を遂行する。

1.2 コミュニケーション能力

- (1) 病棟の多くの医療スタッフと、日常的に適切な態度で接して、コミュニケーションを取り、最良の医療を提供できるよう、良好な人間関係、信頼関係を構築できる。
- (2) すべての患者に対して、コミュニケーションを取り、心理状態や病状の変化、理解度と反応に合わせて、指導することができる。

1.3 患者中心のチーム医療

- (1) 病院および地域社会において、医療チームで薬剤師が担うべき役割を把握し、薬剤師としての自己行動計画をたてて、患者を中心としたチーム医療に関わる情報を共有する。
- (2) 患者の治療について多職種に積極的に提案・討議し、治療の決定及びモニタリングを実践できる。

1.4 医薬品の調剤・調製、管理、供給

- (1) 調剤の一連流れを理解し、調剤、調製、監査、服薬指導を適切に実施できる。
- (2) すべての医薬品の特性と法規を理解し、医薬品の管理、供給を適切に実施できる。
- (3) 医薬品の必要な情報を収集、評価し、それらを適切に情報提供できる。

1.5 適正な薬物療法の実践

- (1) 最適な科学的根拠に基づいており、患者の現在の病態や生理機能、合併症とともに、患者の思いや環境に配慮した最適な薬物療法を実践する。
- (2) 薬に関連する問題点を抽出し、評価・改善できる。

1.6 地域への貢献

- (1) 病院薬剤部と保険薬局との連携促進を図り、業務上の課題共有、解決することにより、患者により良い地域医療を推進することを理解できる。
- (2) 多様な患者に対し、退院後の医療環境（在宅、外来、転院など）と、関与する医療者を把握し、これらの医療者が利用することを想定した情報提供を実践できる。

1.7 医療安全管理

- (1) 医療安全の重要性を理解し、規定・手順に沿った医療を実践し、医療安全文化の向上に貢献できる。
- (2) 発生した医薬品の副作用・アレルギーに対応できる（医薬品安全性情報報告書、副作用被害救済制度、臨床的な対応と代替薬の提案）。
- (3) 個人情報管理などの医療上の特に管理に注意が必要な事項を理解し、適正な取り扱いを実施できる。

1.8 薬学研究と自己研鑽

- (1) 研修を通して、医療の発展に貢献する医療・薬学に関わる研究課題に、取り組む姿勢を修得する。
- (2) 最新の知識や技能、必要な情報を生涯にわたって獲得するために自己研鑽に努める。

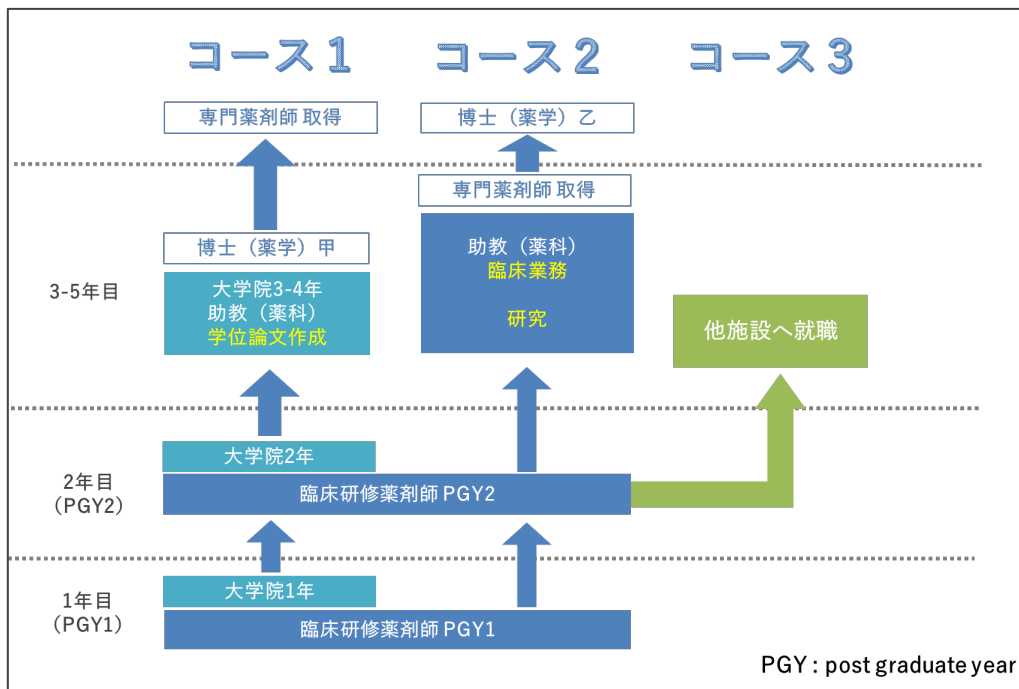
2 臨床研修薬剤師のキャリアパス

臨床研修薬剤師は、臨床薬剤師として成長するキャリアパスとして、複数の道が用意されている。

2.1 キャリアパス

臨床研修薬剤師制度では、3つのキャリアパスがある。

- コース1** 臨床研修薬剤師の研修と同時に大学院に入学。3～4年目で集中的に研究に従事し、学位を取得後、病院で専門薬剤師の取得を目指す。
【本学推奨】
- コース2** 大学院には入学せず、臨床研修薬剤師修了後、病院薬剤学講座に所属し、病院に勤務し、学位取得および専門薬剤師の取得を目指す。
- コース3** 大学院には入学せず、臨床研修薬剤師修了後、他施設に就職する。



2.2 昭和大学が目指す臨床研修薬剤師に求められる修得項目

臨床研修薬剤師カリキュラムには、以下の項目を盛り込む。

疾患領域	基盤となる知識
(1) 内科領域の薬物療法 (2) 外科領域の薬物療法 (3) がん領域の薬物療法 (4) 代表的な感染症の薬物治療* (5) Common diseaseの薬物治療* *主にPGY2で修得する	(1) 調剤(処方、注射) (2) 製剤の知識と技能 (抗がん薬調製、TPN調製を含む) (3) 薬品管理 (4) 医薬品情報管理 (5) 基本薬剤120選 (6) がん化学療法レジメン管理 (7) 安全管理 (8) 薬剤師倫理

1 研修施設および年間スケジュール

1.1 PGY1 年間スケジュール

昭和大学病院、昭和大学江東豊洲病院、昭和大学横浜市北部病院、昭和大学藤が丘病院のいずれかで1年間研修する。

		PGY1											単位認定	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月
研修内容		センター			センター+病棟導入			病棟1 (病棟:センター=1:1)			病棟2 (病棟:センター=2:1)			
センター	業務範囲	単独で実施可能な業務 (○と○※)			最終鑑査開始		日直					当直		自立して当直業務を実施
	基本薬剤	基本薬剤120選①: 口頭試問 (薬効群・作用機序・常用量)			基本薬剤120選②: 自己学習 (禁忌・減量規定・その他特徴)								120選修得	
	基本レジメン				5レジメン: 自己学習								(総合評価試験に合格)	
	医薬品評価				DIの医薬品評価に参加する (1回以上)									
臨床	業務範囲	-			指導薬剤師のもとで病棟研修 (薬品管理、薬剤管理指導、チーム医療の実践) ★内科系疾患、外科系疾患、悪性腫瘍を各1症例以上、修得する								・自立して病棟業務を実施 ・副作用報告又はプレアポイド1件	
	薬剤管理指導件数 (件/月)	-				5	10	15	20	20	各20~40		120件/年	
	修得疾患 (疾患数/クール)	-			1疾患			2疾患 (2以上)			2疾患 (2以上)		5疾患以上	
	症例サマリー (件/クール)	-			1疾患			2疾患 (2以上)			2疾患 (2以上)		5サマリー以上	
講義・演習	集中講義				症例演習1 (任意)			症例演習2 (任意)			症例演習3 (任意)			
	臨床研修薬剤師講義 eラーニング	・安全管理 (各病院) ・薬剤師倫理 ・薬品管理			①病棟導入講義 (薬剤管理指導・SOAPの書き方) ②がん総論 ③外科総論			④病態評価・副作用評価の基礎 ⑤TDM ⑥感染症			⑦緩和ケア ⑧症例プレゼンテーション			すべて受講
	大学院講義	①救急医療薬学	-	受講 (推奨)										
		②薬学的がんケア学	-	受講 (推奨)										
		③薬物治療学特論	-	受講 (推奨)										
		④病院薬剤学特論	-	受講 (推奨)										
		⑤病院薬剤師が行う臨床研究	-	受講 (推奨)										
⑥感染制御薬学	-	受講 (推奨)												
研究	病院薬剤学講座関連セミナー	推奨												
教育	学会	推奨												
	教育評価のためのWS	年2回												
評価	形成的評価	ポートフォリオ・研修記録 (毎月)、プロフェッショナルリズム評価 (3か月に1回)									病棟: ループリック評価 (3か月に1回)		症例カンファレンス	ループリックB以上、症例カンファレンス実施
	総括的評価	センター到達度試験1 (部署ごとにシニアの口頭試問)			センター到達度試験2 (技能確認: センターシニアによる実技試験)			センター到達度試験3 (120選を中心とした処方監査)		PGY1到達度評価試験	センター到達度試験4 (特殊な疑義照会等)			4つの試験および到達度試験に合格している
備考		★5月中旬以降にシニア以上の薬剤師の病棟業務に同行する			センター研修を自己で組立		病棟・センターを2週間程度でローテーション			次年度希望調査		PGY2進級確認		

臨床研修薬剤師制度 概要

1.2 PGY2 年間スケジュール

昭和大学病院（東病院）、昭和大学横浜市北部病院、昭和大学藤が丘病院（リハビリテーション病院）、江東豊洲病院、烏山病院のいずれかで1年間研修する。

病棟は1～2病棟を臨床研修薬剤師1～2名で担当する。8月以降に、選択研修（希望者のみ）を5日間×2領域実施する。

		PGY2												単位認定	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
研修内容		病棟（発展）・センター（病棟：センター＝1～2：1）												任意	
		選択研修：ER、ICU、周産期、精神科、緩和、小児科、地域医療、各1週間×2つまで その他（病理解剖見学、外来診察同行、外来化学療法室）													
センター	業務範囲		異動者 日直開始	異動者 病棟開始	異動者 当直開始								病院実習1指導 新PGY1指導		
	医薬品評価	DIの医薬品評価を自ら行い、参加する（1回）													
臨床	業務範囲	単独で病棟研修													
	薬剤管理指導：実施率（%）	20	30	40	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50%への到達	
	症例の要約	サマリー（件/年） ※（ ）は4月から病棟担当した 場合の累計数	(1)	(2)	(3)	1 (4)	2 (5)	3 (6)	4 (7)	5 (8)	6 (9)	8 (11)	10 (13)	12 (15)	4領域5疾患、累計 12症例以上
	レポート（件/年）					1			2			3		3編以上	
講義・演習	eラーニング	自己学習（各病院必須コンテンツあり）													
	大学院講義	①救急医療薬学	-	受講（推奨）											2～3個程度選択
		②薬学的がんケア学	-	受講（推奨）											
		③薬物治療学特論	-	受講（推奨）											
		④病院薬剤学特論	-	受講（推奨）											
		⑤病院薬剤師が行う臨床研究	-	受講（推奨）											
		⑥感染制御薬学	-	受講（推奨）											
⑦薬学的医療マネジメント学		-	受講（推奨）												
	病院薬剤学講座セミナー	推奨													
	学会	推奨													
	論文	症例報告（医薬品安全性情報報告含む）1編以上の提出												1編以上	
教育	教育評価のためのWS	年2回													
	薬学生の指導	実務実習の指導と評価補助、その他薬学生の実習の指導												1人以上の指導実績	
評価	形成的評価	ポートフォリオ	ポートフォリオ・研修記録（毎月）、プロフェッショナルリズム評価（3か月に1回）												
		ルーブリック	1回目			2回目			3回目			4回目			全項目A
		領域別症例カンファレンス				第1回ケースカンファレンス			第2回ケースカンファレンス			第3回ケースカンファレンス			
	総括的評価				到達度試験②		病棟口頭試験							修了判定	修了判定項目の合格
総合判定（評価）		①症例レポートの内容評価 ②全般評価（実行部会/運営部会委員）													

2 指導体制（プログラム運営部会・実行部会、シニア、プリセプター）

2.1 構成

臨床研修薬剤師プログラム運営部会委員（各施設薬剤部長または薬局長およびプログラム責任者）のもとで、各施設の実行部会委員がプログラムの運営を補佐する。各病棟に「プリセプター」という教育担当がおり、プリセプターの指導状況をシニアファーマシストが管理する。

2.2 プリセプター

プリセプターは初期研修（PGY1 研修に準じる研修）を修了した薬剤師で、各病棟で1名以上が担当する。センター期間中にもプリセプターが指導を担う。プリセプターは、知識・技能の修得を支援し、目標と研修計画立案を管理する。

2.3 シニア

病棟においては十分な臨床経験を有し、高い臨床能力と指導能力を持つ薬剤師である。センターにおいてはその部署において十分な経験と知識を有し、高い指導能力を持つ薬剤師である。評価はシニアファーマシストが行う。また、プリセプターの指導が十分行われているかを確認し、必要に応じて効果的なフィードバックを行う。

2.4 メンター

5年以上の実務経験を有し、臨床研修薬剤師の研修および生活上の支援とメンタル面のサポートを行う。メンターの立場としては、指導、評価には直接携わらない。定期的に臨床研修薬剤師と面談する。

2.5 プログラム運営部会・プログラム実行部会

統括薬剤部のビジョンに従い、プログラム運営部会および実行部会で研修プログラムを管理する。

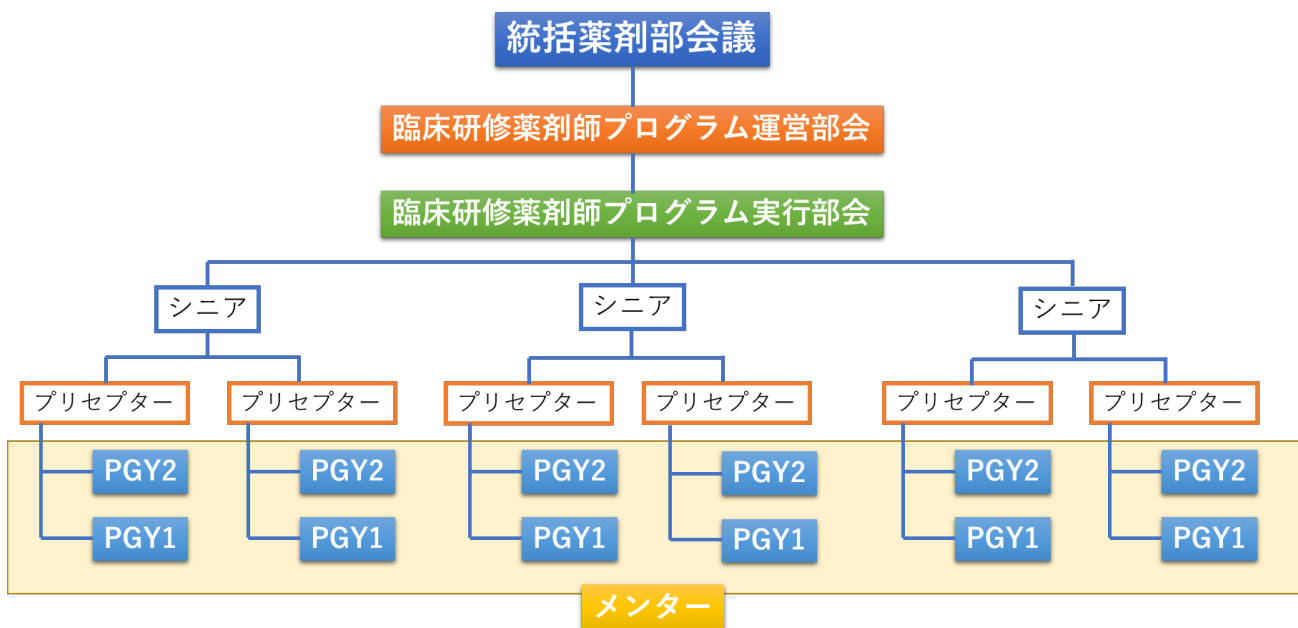


図. 臨床研修薬剤師の指導体制

3 コンピテンシーとルーブリック評価

コンピテンシーとは、その人が有する能力である。臨床研修薬剤師プログラムでは、センターや病棟で教育を実施して、その結果コンピテンシーを修得したか、様々な評価方法で確認・検証する。その1つがルーブリック評価である。

3.1 ルーブリックのレベル設定

ルーブリックは、臨床能力を段階的に評価するツールである。PGY1 修了時にレベル B、PGY2 修了時にレベル A を目指す。

コンピテンシー		ルーブリック			
		A	B	C	D
1	持参薬確認と初回面談準備	<input type="checkbox"/> 持参薬の正確な内容確認と種々の医療情報から、患者の治療中の疾病の病状や治療目標と、持参薬の薬理作用・作用機序を関連付けて把握し、治療中の疾病や持参薬と関連する入院中の問題点を優先順位をつけてもれなく想定できている。	<input type="checkbox"/> 持参薬の正確な内容確認と種々の医療情報（紹介状、外来カルテ、診療録など）から、患者の治療中の疾病の病状や治療目標と、持参薬の薬理作用・作用機序を関連付けて把握している。	<input type="checkbox"/> 持参薬の内容と残数を正確に確認でき、持参薬の適応症、薬理作用、作用機序から、患者に最も可能性の高い使用目的を挙げています。	<input type="checkbox"/> 持参薬の医薬品の内容（種類、剤形、用法・用量）と残数を正確に確認でき、持参薬の適応症、薬理作用、作用機序から推測される基本的な使用目的を挙げています。
		<input type="checkbox"/> 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための最適な確認項目を、事前にもれなく準備している。	<input type="checkbox"/> 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための最適な確認項目を、事前にもれなく準備している。	<input type="checkbox"/> 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための基本的な確認項目を、事前に準備している。	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> お薬手帳や医薬品情報説明用紙から、入院治療に影響を及ぼす重要な情報を漏れなく抽出し、評価できている。	<input type="checkbox"/> お薬手帳や医薬品情報説明用紙から、入院治療に影響を及ぼす重要な情報を漏れなく抽出し、評価できている。	<input type="checkbox"/> お薬手帳や医薬品情報説明用紙を、持参薬の内容と合わせて確認したうえで、面談時の情報源として活用している。	<input type="checkbox"/> お薬手帳や医薬品情報説明用紙を確認している。

(臨床研修薬剤師コンピテンシー評価票より抜粋)

3.2 評価方法

各研修期間の終了時（6、9、12、3月）に、ルーブリック評価を行う。まずセルフチェックし、プリセプターと共に口頭試問で各項目を評価する。

4 研修責任者および研修施設

▼研修責任者：佐々木 忠徳（昭和大学 統括薬剤部長）

▼研修施設

昭和大学病院（PGY1・2 研修病院）

〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話（大代表）：03-3784-8000

【最寄駅】東急池上線、大井町線「旗の台」駅徒歩3分。東急目黒線「西小山」駅徒歩10分。

昭和大学病院附属東病院（PGY1・2 研修病院）

〒142-0054 東京都品川区西中延 2-14-19

電話（大代表）：03-3784-8000

【最寄駅】東急池上線「旗の台」駅徒歩10分。東急池上線「荏原中延」駅徒歩10分

昭和大学横浜市北部病院（PGY1・2 研修病院）

〒224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話（代表）：045-949-7000

【最寄駅】横浜市営地下鉄線「センター南」駅徒歩5分

昭和大学藤が丘病院（PGY1・2 研修病院）

〒227-8501 神奈川県横浜市青葉区藤が丘 1-30

電話（代表）：045-971-1151

【最寄駅】東急田園都市線「藤が丘」駅徒歩2分

昭和大学江東豊洲病院（PGY1・2 研修病院）

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

電話：03-6204-6000

【最寄駅】東京メトロ有楽町線「豊洲」駅徒歩6分。ゆりかもめ線「ゆりかもめ豊洲」駅徒歩6分

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院（PGY2 研修病院）

〒227-8518 神奈川県横浜市青葉区藤が丘 2-1-1

電話（代表）：045-974-2221

【最寄駅】東急田園都市線「藤が丘」駅徒歩2分

昭和大学附属烏山病院（PGY2 研修病院）

〒157-8577 東京都世田谷区北烏山 6-11-11

電話（代表）：03-3300-5231

【最寄駅】京王線「千歳烏山」駅徒歩10分

▼研修協力施設

昭和大学歯科病院（研修協力型病院）

〒145-8515 東京都大田区北千束 2-1-1

電話（代表）：03-3787-1151

【最寄駅】東急目黒線「洗足」駅徒歩 3 分。東急大井町線「北千束」駅徒歩 5 分